

55プラス

めざせ、バンドデビュー①



スタジオでバンドメンバーと練習する藤本恵里さん（左）、信夫さん（中央）

夫も巻き込み、高揚感体験

週末の昼下がりに、さいたま市内の音楽スタジオ。

「じゃあ、次は『モーニョン』やろうか」。女性ドラマーがカウントし、ギター、ベース、トランペットが加わっていく。藤本恵里さん(59)も顔を引きしめて、サクスをくわえた。

2004年、恵里さんはギターを習っていた女友だちと「バンドをやろう」と意気投合。音楽は大学のクラシックギターサークル以来。結婚、子育てで遠ざかっていた。未経験だがドラ

ムを担当したいと思った。

10代の頃はビートルズ全盛期。だが、「バンドは不良のやるもの」という雰囲気だった。そんな中、中学最後の文化祭で演奏した男子4人グループがいた。

「ドラムの椅子、座っていないよ」と言われたときのドキドキした気持ち。40年を経て、よみがえった。

通い始めたドラムのグループレッスンとネット掲示板で男性メンバー3人を見つけ、バンドを結成。だが07年、友人が脊髄のがんに侵され、翌年には男性1人が大腸がんで亡くなった。バンドは自然解散した。

退院した友人はリハビリを兼ねてドラムを始め、恵里さんはサクスに挑戦することに。ある日、中高年を中心に約100人が所属するビッグバンド「さいたまスーパージニアバンド」を知り、参加した。夜、月2回の全体練習と、月1回のパート練習があった。

練習に出かけると、「今夜もいないのか」と夫の信夫さん(63)に文句を言われた。「夫もロックやジャズなど音楽好き。だったら、巻き込んでしまおう」

誘われて、信夫さんもビッグバンドでベースを始めた。初心者だったが、毎日

欠かさず3時間ほど弾き、腕を上げた。恵里さんにも「やるからにはうまくなれ」と言い、練習で夕飯が遅くなっても文句を言わなくなった。

今は、ビッグバンド仲間と作った5人のバンドに夫婦そろって参加する。昨年9月には、地域の祭りで待望のデビューも果たした。

「バンドは、ふだんの生活では味わえない緊張感、高揚感を体験できる。ライブで拍手を受ける瞬間は格別。ライブに友人や親戚が来てくれるなど、人となりがるきっかけにもなっている」

(鈴木綾子)

▼あすは「仲間集めと長続きのコツは？」です

◆ご意見・体験はseikatsu@asahi.com

55プラス

めざせ、バンドデビュー②

仲間集めと長続きのコツ

シニア向けメンバー募集掲示板のあるサイト

★オヤジロック!
<http://www.oyaji-rock.jp/>★おやじバンド向上委員会
<http://www.oyajiband.com/>

バンドを長く続けるコツ

- 自分はずきんと、まわりには柔軟に
- ライブの結果にこだわりすぎない
- 音楽関係以外の友人とも幅広くつきあい、発表の機会を増やす



The Asahi Shimbun

仲間を理解し長続き

バンドを結成したいが、近くに仲間がいない——。

こんなとき、インターネットのサイトを使う手がある。大阪でウェブ関係の仕事をする永堀実さん(56)は、気軽に仲間を探せるよう、2年前、サイト「おやじバンド向上委員会」内に掲示板を作った。

「当方、アラ還。ベンチヤーズ、オールディーズなどできたらと思います。集場所は主に大阪市北部を予定しています」。こんなメンバー募集の投稿に、

「はじめまして。兵庫県に住む60歳です。初心者ですがギターならできます」と書き込みがある。

メンバー募集の際は、やりたい音楽のジャンル、活動日、場所などを書き込む。参加したいときは、疑問点などをやりとりしたうえで、メールアドレスや電話番号など個人情報を交換して、詳細を確認する。

「オヤジロックBBS」を運営する東京都の平井洋一さん(58)はネットでのメンバー集めについて「実際にやってみると演奏レベルや音合わせの相性があわず、うまくいかない可能性もあ

ることを理解して利用してほしい」と言う。

音楽教室のレッスンに参加する方法もある。

「ヤマハ大人の音楽レッスン」では、レッスン受講生同士でバンドを組み、演奏する発表会がある。1曲を3カ月ほどかけて練習し、本番に臨む。発表会をきっかけに本格的にグループを組むケースも多い。

長続きさせるにはどうすればいいのか? 「時間が少ない、家族の反対など、バンドを続ける際のネガティブな要因は、中学生も大人も同じ」と話すのは、同レッスンの講師の遠藤久さん

(48)。むしろシニアのほうが人間的に成熟しているため、理解しあい解決できることが多いという。

中高年を中心に約1000人が参加するビッグバンド「さいたまスーパースニアバンド」を指導する織田準一さん(59)は「柔軟なことが長続きのコツ」と言う。

例えば、ライブを開くにしても、成果を求めるあまり、メンバーそれぞれの事情などをないがしろにしないことが大切だ。「うまくいかなくても、『次のライブもあるから』、と余裕を持つぐらいのほうが長続きする」

▼あすは「練習は便利にお得に」です

◆ご意見・体験はseikatsu@asahi.com

55プラス

めざせ、バンドデビュー③

練習に相談にIT活用

こんなツールが使える!

打ち合わせ

Facebook。メンバーだけが投稿を閲覧できるグループを作れる。YouTubeなどへのリンクも張れる

音源や楽譜の共有

ネット上のファイル保管サービスなら、メンバー同士で簡単に

練習の録音

スマートフォンを使えば、録音したものを手軽にメール送信できる



The Asahi Shimbun

さいたま市の藤本恵里さん(59)は、バンド仲間とほぼ月1回のペースで練習を重ねる。次に演奏する曲の相談や、練習のアドバイスなどはフェイスブックでやりとりする。「次はこの曲やらない?」とユーチューブの音楽映像のURLを張りつけ、グループのページに投稿する。「また新しい曲やるの?」「この曲かっこいいね」などと、ほかのメンバーからのコメントが届き、議論が進む。その分、集まったときは練習に

集中できる。

手書きの楽譜はスキャナーで読み取り、データ化して共有する。練習の様子はICレコーダーで録音してパソコンに取り込む。必要な部分だけをまとめて携帯音楽プレーヤーに移せば、繰り返し聞ける。「病を抱えるメンバーもいて、頻繁には集まれないので、こういったツールはとても便利」と藤本さん。

さあ、練習。一般的なスタジオで5人が練習できる部屋を借りると、都内の場合、1時間で2千〜3千円ほどだ。個人練習なら、前日夜の時点で空いていれ

ば、1時間数百円で予約できることが多い。

公民館やコミュニティセンターのスタジオなら1時間数百円程度で使えることもある。手順だが、すぐ予約で埋まってしまうことが多い。自治体のホームページなどで探してみよう。

島村楽器では、当日問い合わせで、空き時間があれば、レッスン教室を借りることができ。約20畳の部屋なら一般で30分2千円程度から、1人用の小さな部屋なら30分800円程度から。ドラムセット、アンプの有無や料金は、教室によって異なるので、問い合わせ

せの際に確認しよう。ヤマハ音楽教室でも、空き状況によって貸してもらえないことがある。

個人練習なら、カラオケ店が利用できるケースも。電源を利用するアンプやあまりに大きな音を出す楽器の持ち込みはだめだが、サックスなどの管楽器なら大丈夫というところが多い。念のため事前に店に問い合わせしておくことだ。混み合う時間は避けよう。シダックスや歌広場ではシニア向けの割引制度がある。それ以外の店でも、平日昼間は2時間で千円かからないことが多く手頃だ。

▼あすは「さあ、ライブ!」です

◆ご意見・体験はseikatsu@asahi.com

55プラス

めざせ！バンドデビュー④

ライブで高まるやる気

バンドのだいご味はやはりライブ。「ヤマハ大人の音楽レッスン」講師の遠藤久さん(48)は「ライブをやる」と課題が見え、やる気も高まる」と話す。

まずは知り合いのライブを見にいき、イメージを膨らませてみよう。いきなり知らない人の前で演奏するのが不安なら、友人や家族など身近な人だけを呼ぶところから始めてもいい。

ライブをやる場所はどうか

確保すればいいだろう。便利なのは、機材がそろっているライブハウス。出演には主に二つの方法がある。

一つがホールレンタル。

貸し切って、イベント全体を自分たちで企画する。都内だと7、8時間で10万円前後からが多い。他バンドと一緒に、費用や演奏曲数の面からも挑戦しやすい。もう一つがブッキング。申し込むと、店がバンドの演奏ジャンルやレベル

を見て、適した主催イベントへの出演を調整する。チケットを買い取る必要がある場合もある。

「ライブでは、機材のこ

とも演奏も、失敗しながら学ぶもの。何度か経験すると余裕も出ます」と遠藤さん。お客さんを楽しませる意識を持てるとういとう。「イベントを組み立てたり、チラシを作ったりするとき、会社での経験などシニアの持ち味を生かせ

ライブはどこでできる？

ライブハウス

ブッキングとホールレンタルの二つの方法がある

イベントスペースやレストランなど

機材がそろっていない場合もあるので要確認

バンドコンテスト

中高年世代対象のものも増えている

祭りなどのイベント

事前審査がある場合も



▼次回は13日から「ワイン作りに挑戦」です

とが大切だという。「話すことがなければ黙っていてもいいんですよ」

コンテストに参加する方法もある。15年の歴史を持つおやしバンドコンテストの草分け、NHK「熱血！オヤジパトル」のプロデュサー中村貴志さん(41)は、「シニア世代は、これまでの暮らしか仕事、コピーするミュージシャンへの愛がにじみ出ている『味』がある」と魅力を話す。近年はシニア層の裾野が広がり、女性も多いという。

ば、演奏以外の部分でも独自色を出せます」

曲の合間のトークが苦手という人も多い。トランプ

「会場にいる誰かと話すつもりで」とアドバイスする。面白かったり、流暢だったりしなくてもかまわない。その人らしさが出るこ

ット奏者の織田準一さんは

(鈴木優子)